



昭和医科大学歯学部だより

2026年 1月号

通算第238号

巻頭言

<歯学部長 馬場 一美>

デジタル変革や社会の変化を背景に、歯科界は今、かつてない大きな転換点を迎えています。今、私たちに求められているのは、過去の成功体験に安住することではなく、自ら前例を疑い、新しい価値を創り出す姿勢です。「現状維持は、緩やかな後退である」という言葉を胸に、変化を恐れず挑み続けることが、組織をより強く、持続可能なものへと進化させます。

私たちは今一度、教育・研究・臨床の現場を見つめ直し、各自の専門性を高めると同時に、本学の伝統である学部・部門を越えた協働を進める必要があります。日々の業務に追われる中でも、目の前の課題から目を背けず、小さな改善を積み重ねていく。その一步一步が、次の時代を切り拓く

大きな原動力となります。教職員一人ひとりの挑戦が、歯学部の未来を形づくる一年にしていきたいと思います。



OSCE が実施されました

<OSCE委員会 委員長 菅沼 岳史>

2025年度共用試験OSCEが、1月11日(日)に歯科病院において実施され、100名のD4学生全員が受験しました。今回はこれまでの紙の評価シートからiPadに評価を入力する方法としたことが大きな変更点でした。当日は通信障害などのトラブルもなく無事終了することができましたが、前日の試験実施前点検で本番同様に評価することができない設定となっており、今後のシステムの改善を機構に要望したいと思います。来年度は1月10日(日)(前日準備9日(土))に実施されますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

- P.1 【巻頭言】
- 【OSCE が実施されました】
- P.2 【大学入試共通テストが実施されました】
- 【D3 昭和医科大学附属病院病棟体験実習が行われました】
- 【受賞】
- P.3 【石館・上野賞を受賞しました】
- P.4 【日本口腔外科学会 最優秀口演発表賞を受賞しました】
- 【行事予定】 【編集後記】

歯学部長 馬場 一美教授
OSCE 委員会 委員長 菅沼 岳史教授
入試常任委員 美島 健二教授
歯学教育学講座 坂井 信裕教授

口腔生化学講座 塚崎 雅之教授
顎顔面口腔外科学分野 中島 和希先生

大学入試共通テストが実施されました

<入試常任委員 美島 健二>

この1月17日(土)と1月18日(日)において独立行政法人、大学入試センターが実施する大学入学共通テストが行われました。歯学部においては、大学入学共通テスト利用入試の学力試験として共通テストが利用されています。大学入学共通テスト利用入試の歯学部志望の入学志願者数は昨年度と比較して増加傾向にあり、2月5日(木)に東京五反田TOCビルで実施されます面接試験にのぞみ、2月10日(火)に合格発表が行われます。

また、大学入学共通テスト当日、試験実施に参加されました教職員の皆様お疲れさまでした。

D3昭和医科大学附属病院病棟体験実習が行われました

<歯学教育学講座 坂井 信裕>

2025年10月から12月にかけて3年次昭和医科大学附属病院病棟体験実習が行われました。この実習は5年次の学部連携病棟実習の準備実習としての位置づけでもあり、学生は1名ずつ附属病院の病棟に1日間配属され、看護師の指導のもとで医療チームの連携および責任について学びます。実習前には附属病院の看護師から「看護業務と病棟環境の理解」と「病院における感染管理上の注意」の講義を受けました。



トラブルもなく無事に実習は終了し、医療従事者の使命や患者やその家族との信頼関係の重要性を学んだと思います。最後になりましたが、本実習に関わって頂きました附属病院病棟スタッフの皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

受賞

令和7年度日本歯科理工学会関東地方会 研究奨励賞

田村 修一(歯科矯正学分野 大学院2年次)

石館・上野賞を受賞しました

<口腔生化学講座 塚崎 雅之>

この度、「腫瘍、自己免疫、感染に伴う組織破壊機構の解明」という題目で、令和7年度「石館・上野賞」を受賞いたしました。本賞は45歳以下の医学研究者を対象とした国内最高峰の賞として知られており、過去の受賞者には、増田 隆博先生(九州大学 生体防御医学研究所 主幹教授)、岡田 随象先生(東京大学 医学部 遺伝情報学 教授)、片岡 圭亮先生(慶應義塾大学医学部 血液内科学 教授)など、医学領域を代表するトップサイエンティストが名を連ねています。



2025年11月28日に、東京ステーションホテルにて授賞式および記念講演会が開催され、東京フィルハーモニー交響楽団を擁する華やかな雰囲気の中、財団理事や選考委員をはじめ、本邦ライフサイエンス領域を代表する多くの研究者の先生方を前に、受賞記念講演を行う機会を頂きました。

選考の経緯を伺ったところ、Nature, Cell, Science などのトップジャーナルに多数の論文を有する錚々たる候補者の中にあっても、私の研究は歯科医師としての発想に立脚した、他に類を見ない独創的な内容であり、その独自性と将来性を高く評価していただいたとのことでした。歯科の特殊性を徹底的に掘り下げることが、逆説的に普遍性へ至ると信じ努力してきた私の信念を認めていただけたように感じ、大変嬉しく思いました。

歯学部の研究者の多くは、自身の研究はマイナーで評価されにくいと最初から諦めてしまうか、あるいは他領域の模倣や医科疾患の重要性に依拠した研究を行うかの、二つのパターンに大別されるように思います。しかしこれは、いわば「隣の芝生は青く見える」というバイアスに過ぎません。ノーベル生理学・医学賞の対象となるような研究であっても、工学や物理学など異分野の研究者から見れば、特殊でマイナーな研究領域に映るはずです。

研究領域とは、海に浮かぶ島のようなものだと思います。そこから深く潜れば潜るほど、見上げたときにそれぞれの島の距離が分からなくなるように、自身の専門領域を真っ直ぐに突き詰めていくことでこそ、他分野にも訴えかけるブレイクスルーが生まれるのだと信じています。私自身もまだ道半ばではありますが、さらに深くサイエンスの海に潜り、新たな景色を探し続けていきたいと思っています。

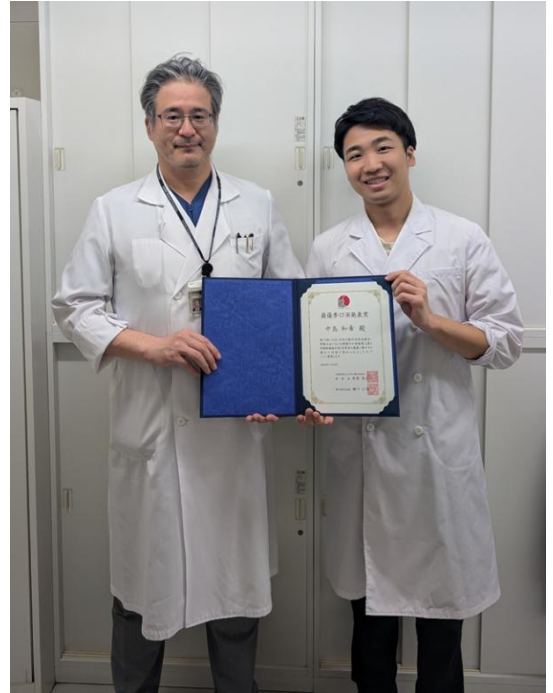
最後に、大学院時代から独立に至るまでご指導くださいました高柳 広先生、共に研究に取り組んでくれた学生・ポスドクの皆様、昭和医科大学にて独立後、研究室を支えてくださっているスタッフの皆様、そして数多くの共同研究者の皆様に、心より感謝申し上げます。本賞を励みに、今後も一層精進してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

日本口腔外科学会 最優秀口演発表賞を受賞しました

＜顎顔面口腔外科学分野 大学院4年次 中島 和希＞

この度、11月14日～16日に開催された第70回日本口腔外科学会・学術集会にて、最優秀口演発表賞を受賞いたしました。本賞は、日本口腔外科学会総会・学術大会における発表演題の中から特に優れた口演発表に授与されるものです。

本研究では、ヒトiPS細胞から胎生期口腔上皮を高効率に誘導するプロトコルを確立し、これまで解析が困難であったヒト胎生期の唾液腺器官発生を再現・解析可能なモデルの構築に成功しました。この受賞は、私の大学院生活の中心として取り組んできた研究を高く評価していただいた結果であり大変嬉しく思います。末筆ではございますが、日頃よりご指導くださいました美島 健二教授(口腔病理学部門)、田中 準一准教授(同)ならびに大場 誠悟教授(顎顔面口腔外科学部門)に深く感謝申し上げます。



行事予定

- 2月5日(木) 歯学部一般選抜入試(Ⅰ期)
大学入学共通テスト利用入試(面接)
- 2月23日(月・祝) 大学院春季Ⅱ期入試(医・歯・薬学研究科)
- 3月8日(日) 歯学部一般選抜入試(Ⅱ期)
- 3月17日(火) 卒業式・学位記伝達式
- 3月24日(火) 大学院春季修了式

編集後記

これから入試シーズンが始まり、そのうちに卒業・進級シーズンを迎えます。寒い日が続いておりますため、皆様健康管理にはくれぐれもお気を付け下さい。年末年始のお忙しい中、ご寄稿下さいました先生方に心より感謝申し上げます。

＜中村＞